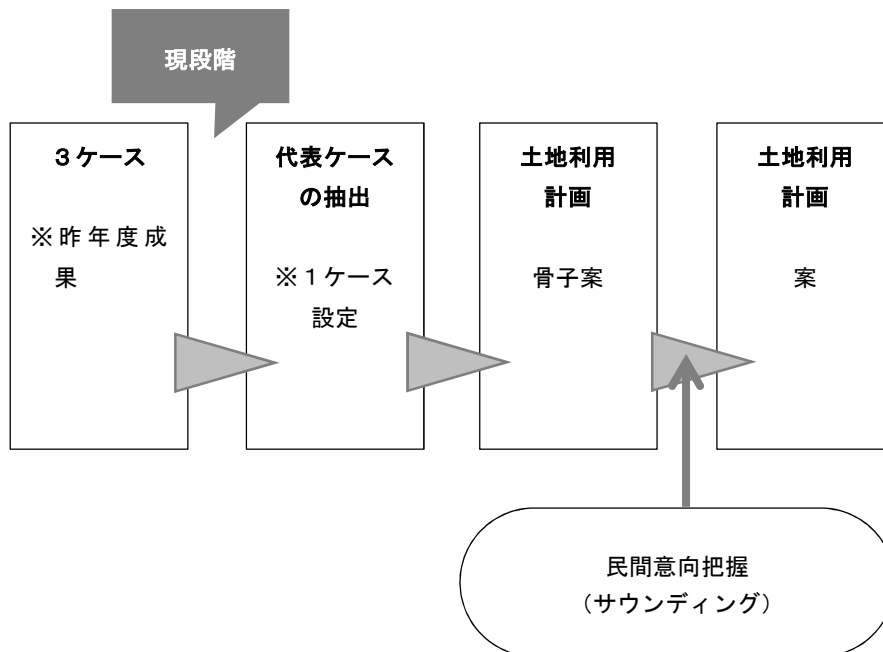


今後の検討の進め方

1. これまでの検討の流れ（確認）



2. 検討にあたっての課題と対応策

代表ケース抽出についての課題

- ・ ケーススタディ評価結果等を活用し、各機能の特徴を踏まえながら、機能を取捨・選択しつつ、組合せや規模・配置等を精査するといった、代表ケースを抽出するための実現性の検証や条件などが明確化されていない状況にある。

1月30日及び2月1日のワーキングでの意見（抜粋）

- ・ 代表ケースの抽出については、民間事業者へ開発地の存在をアピールしつつ、アイデアをもらうことも考えられる。民間からの提案を受けることで、土地利用検討の判断材料が得られると良い。
- ・ 開発地の可能性を広く聞いてから検討するというやり方もあるので、土地利用が決まる前に意見を聞いても良いかと思う。
- ・ どのような評価軸を大事にするか、募集要項、評価項目を詳細化して検討する必要がある。
- ・ 最後は市の求める機能が必ずあって、何の機能をどのような点で評価するのか、市の意向も重要なポイントになる。



こうした意見を踏まえた対応策

- ・ 代表ケースの抽出に先立ち民間提案を得る。
- ・ 民間提案の条件や評価のポイントは、これまでの検討会議での議論を踏まえつつ、まちづくりコンセプト、土地利用方針、土地利用計画の方向性なども前提に策定。
- ・ いただいた民間提案については、検討会議の学識経験者と市幹部職員で構成する組織で評価する。
 - 学識経験者：これまでの検討会議経過を踏まえるため
 - 市幹部職員：市の意見（市がやりたいこと）を反映
- ・ 骨子のベースとなる民間提案を選定し、代表ケースのたたき台を作成した段階で、検討会議に示し、検討会議の議論のもとで、土地利用計画骨子を策定していく。